

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070800293		
法人名	社会福祉法人 小諸青葉福祉会		
事業所名	グループホーム やまびこの家		
所在地	長野県小諸市柏木1326-1		
自己評価作成日	平成23年10月20日	評価結果市町村受理日	平成24年4月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成23年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症状のある要介護高齢者に対し、少人数で馴染みのある環境の中、安心できる共同生活を提供すると共に、介護やその他の支援について、明るく楽しい家庭的なつづぎのある生活空間を提供する。 ・一人ひとりが安心できる家庭的な生活を送る。 ・家庭、近隣、ボランティア等人が気軽に立ち寄る事が出来る場所とする。 ・運営推進委員会への家族参加。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関からは眼下に佐久平の街並みや山々を見下ろし、夜には見事な夜景を眺められ、見晴らしの良い南向きのゆるやかな傾斜地に建つ平屋のモダンな建物が事業所である。同法人経営のチャイルドハウスが隣接し、敷地続きにデイサービス、軽費老人ホーム、身障者の施設など同法人の経営する他事業所があり、文化祭、運動会などの行事等、いろいろな機会に日常的に交流が持たれている。 地域密着型の事業所の役割を活かすべく、本年度は運営推進会議の複数回の開催に努力され、家族の参加や、地域の区長さん等の参加、市の担当課や包括の職員も参加され、障害者や老人福祉の複合施設の一角という難しい条件の中で、事業所と地域の方々との協力関係の構築に努められている。 また、前年度の外部評価での課題を、次のステップに向けて計画的に取り組み、出来る範囲で何らかの改善や工夫を確実に実施されていた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(1ユニット)							
項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念について職場内に掲示をし、各自確認し、理念を共有し、実践に繋げている。</p>	<p>法人全体の理念を事務室内に掲示され、年度当初や、事業所全体の研修の折などには工夫して理念の共有化に取り組み実践に繋げている。事業計画には事業所独自の理念が書かれ、わかりやすい言葉、内容であり、職員内でも朝会や職員会等で共有している。</p>	<p>法人全体の理念だけではなく、事業所独自の理念も掲示され、共有化し実践に繋げていくことを期待する。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>法人内の行事等に参加し、その場でその地域の方との交流はあるが地域参加行事参加は難しい。</p>	<p>法人内の他事業所とは、日常的に交流を持っている。地域の方とは、今年、初めて、区長さんから地域の2階建ての公民館での介護予防教室に招かれ、数人が職員と参加できた。招待された1月のどんど焼きにも、何とか初参加したいと準備を進めていると伺った。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進委員会において、認知症・事業所内での取り組みを知っていただくように資料を作ったり、普段の生活や行事等の写真で説明した。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議において職員が参加し、意見交換を行っている。また、緊急時の協力体制について確認を行い、避難訓練時に参加をしていただいた。</p>	<p>昨年度までは年1回の開催であったが、今年度は事業計画に年4回とし、既に3回実施した。家族も8割以上に参加いただき、個人面談も実施することができた。事業所の役割等を話し合う中で、区長さんからは、地域行事への参加の呼びかけがあり、地域とのつながりに結びついた。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>月1回のサービス調整会議への参加をすることにより普段より情報のやり取りを行い、小諸市との協力関係を築いている。</p>	<p>サービス調整会議は、市全体の介護事業所の集まりで、市からの連絡や研修も兼ねており、同種の事業者同士の横の連携も取りやすい。運営推進会議には、市の担当課と包括の職員も参加し、具体的な助言等頂いている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠は夜間のみで日中は外出時以外常時開けており、自由に出入り出来るようになっている。その他の身体拘束についても職員研修の中で勉強する等、ケアに努めている。</p>	<p>玄関は、昼間は常時開いている。身体拘束については、マニュアル等も整備されており、研修も実施され、理解を深めながらケアに取り組まれている。最近では、同意書を頂いて身体拘束に至るような事例はないとのことである。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員研修において学ぶ場を提供し、虐待防止について理解し、防止に努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員会議や職員研修において書面や資料等を通して理解に努めている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>随時、書面及び口頭で行い不安や疑問点を解消し、理解や納得をして頂ける様に努めている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・要望は常に受入れ改善に取り組んでいる。また運営推進会議やサービス調整会議などで外部者へ、それらを表している。</p>	<p>家族との面談を今年度は実施され、その時の記録も確認できた。本人の帰宅への思いの中心を聞き、本人の要望を家族にお伝えし、数年ぶりの帰宅が実現された事例があった。その事例から、思いの中心を聞いていく重要性が職員の中にも意識づけられ、サービスの向上に繋がっていると伺った。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々の申し送りの中や、職員会議において常に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。</p>	<p>朝夕の申し送りやその記録、職員会議等で運営に関して意見や提案がされている。収納が少ないためやや乱雑になりがちな脱衣所や、居室の整頓など職員の提案等で工夫されて整備されているのを拝見した。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、目標実績確認表等により個別面接を定期的に行い、個々の努力や実績、勤務状況の把握に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修や佐久圏域グループホーム連絡会での研修、相互評価等に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス調整会議や佐久圏域グループホーム連絡会を通し交流や互いに勉強しサービスの質を向上できるように努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に管理者及び計画作成担当者が本人と会い、現状把握をすると共に今後の生活について話す機会を設け、信頼ある関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの際や契約する際などに、管理者及び計画作成担当者が、ご家族と会い家族の意向・要望を聞く機会を設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの情報だけではなく、ケアマネージャーや利用していた事業所等から書面や口頭等による情報提供を含めた対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の「生きる力」が発揮できるように一人一人に寄り添い共に生活を送るよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密に行い、共に本人を支える事が出来るような関係作りに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人たちが面会に来たり贈り物や手紙などで、その関係を持続出来るように努めている。ADL状況低下により馴染みの場所への外出が困難である。	面会の記録は、入居者ごとのノートに記載されている。外出が困難になりつつあるため、もっぱら友人や知人、親戚の方が訪問されて来ている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞く等し、利用者同士の思いを把握し、間に入ったり、一緒に関わる等利用者同士の関わりや支えあい出来る様に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方々は長期間経過している為、情報収集が困難である。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から話を聞く等をし、その人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	思いや意向の把握には、ケア記録等から、担当者が記録を抜き出してまとめているが、時には病院への受診支援のときなどの時間を利用して、表現しづらい方の想いをゆっくり聞いてみるなど工夫されている。家族からは、面談時や面会時等にお聞きしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	専用シートを用意し家族へ情報記入の依頼をし、協力を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々の生活リズムを理解し、現状把握に努めている。アセスメントシートの活用、定期的な見直しを行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、又は必要に応じて本人・家族への聞き取りや話し合いを行い、課題分析、モニタリング、ケースカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	今年度は、全員の基本情報の書式を統一し、情報を整理し、見やすく書き換えた。介護計画の書式、介護目標の書き方、モニタリングの方法等は、職員の見解を取り入れながら、試行錯誤し検討中である。家族の要望は面談等でお聞きし、計画に反映させている。	介護認定の更新時には、要介護度の現状も家族と一緒に確認し、現状に即した介護計画となるよう、家族も参加する担当者会議を開催されるよう検討されたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・夜勤日誌・ケース記録の記入とそれの確認により職員間での情報の共有をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズを想定し、介護用品・備品等を準備し、又は他部署から備品を借用する等をし、状況発生時に速やかに対応出来るようにしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長・民生委員へ協力依頼をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>契約時に主治医、緊急時の病院について話をし、それに沿った対応を行っている。6月の家族会時、意向の再確認を行った。</p>	<p>今年度は、家族会の時に、一人ひとりの意向の再確認を行なっている。また、病状の変化によって、本人、家族の希望を受けて、受診に付き添ったり、病院での担当者会議に参加したり、主治医と連携されている様子を伺った。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回(水)訪問看護師が来訪し、日々の状況を伝えたり相談し、必要に応じ受診をしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中、家族や病院と連絡をとり面会や電話にて情報交換や早期退院に向けての話し合いを持っている。入院先の病院にてケア方法の指導を受けた。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>状態変化について、主治医・看護師等と連携をとり家族へ説明を行っている。必要に応じ主治医・家族・職員とのカンファレンスを行っている。(6月に退院前のカンファレンスを病院にて、家族・訪問看護師を交え行った)</p>	<p>重度化に向けての指針が用意され、2例看取りを実施されている。家族や病院、主治医、訪問看護師等と話し合いを持ったり、今後の見通しについて、家族を交えて情報を共有し、チームで支援に取り組まれている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署での救命講習を受講したり、職員研修に「おいて実践力を身につけている。また、緊急時マニュアルを設置している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に昼間・夜間での避難訓練を実施している。また地域の方も参加してもらい協力体制を築いている。(運営推進委員会において実施報告、協力の依頼を行っている。10月には利用者家族1名の協力を得られた。次回は24年3月頃を予定)</p>	<p>年2回消防署指導のもと、地域の方の協力も得ながら、法人全体での避難訓練を実施している。入居者のADLも低下し、自力歩行できない入居者が複数おられ、夜間など限られた人員体制の中での、避難方法の工夫が求められ、繰り返しの訓練が必要とされる。</p>	<p>年2回の訓練で十分とするのではなく、定期的な職員の通報訓練や、入居者の避難訓練等を検討することを期待する。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを常に念頭に置き一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう丁寧な言葉かけや対応を実践している。「やまびこ」の宣言を活用し自身のケアの振り返り等を行っている	法人全体で独自の「やまびこ」の宣言を活用し、毎朝夕、法人全体の幹部職員が集まり、部分的に宣言を復唱し、振り返りの機会としている。法人全体の研修も実施されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表しやすいような日々のケア、関係作りに努め、自己決定ができるような声掛け、働き掛け、環境作りに努めた。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の1日の生活リズムを大切にしながら、日々の体調変化・要望・希望等があれば訴えを優先できるよう支援している。(離床・臥床の時間、食事時間・食事場所、行事等への参加等)		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪、毛染めの対応。状況に合わせた身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立づくりを利用者の声を聞きながら行っている。また調理や片づけを職員と一緒にしている。	献立は、5日ごとに作成しており、季節のもの、入居者の希望も取り入れて作成している。法人内の管理栄養士から、病状により特別な配慮を必要とする方への献立や、献立全体にアドバイスを頂いている。食後に自然にテーブルを拭いたり、食器を下げるのを手伝う入居者の姿を拝見した。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分チェックを都度行い、必要に応じて捕食や飲みやすい水分の提供を行っている。食事メニューの栄養バランスを法人内の栄養士にチェックしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕食後に行っている。必要時は昼食後も行う。個々の状況に合わせて見守り、介助行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時対応の他、その日の利用者の状況に合わせて支援を行っている。またオムツ使用者も基本的にトイレを使用している。	昼間は、定時対応の方や、状況に合わせてトイレ誘導する、ポータブルトイレの使用など、オムツに頼らない支援を心がけている。夜間帯も、事故防止に留意しながら、一人ひとりの状況に合わせて支援を行なっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状況に合わせて飲食物を工夫したり、腹部マッサージや運動をしている。また、医師や看護師と連携を図り対応している。(10時のコーヒーを牛乳に変更した)		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護度重度につき職員介助が必要な為、曜日を決めている。(月・木)	大きく深い浴槽の造り、また、入居者のADLの低下により、職員2人以上での入浴介助が必要のため、入浴の曜日が固定されている。入居者からの要望等は聞かれず、入浴拒否される方も、声かけで入浴されている。入浴剤も用意され、楽しめることもある。	入浴は入居者の数少ない楽しみであり、個々の希望を大切にしたい支援が基本である。介護度の重度化に伴う職員の負担軽減と入居者の満足度の向上の点からも、浴室に簡単なリフトの設置、または浴室の一部改修等の対応を法人内で検討され、サービスの更なる向上に努められたい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に合わせて寝る場所や時間等柔軟な対応をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は申し送りをしたり、最新の処方箋を個々にまとめ、いつでも確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のお手伝いの中で役割を感じてもらったり、季節行事や手作りおやつを提供し季節感を楽しんだり気分転換を図っている。また、手芸教室に参加したり、隣接する託児所の子供たちと触れ合ったりもしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と話し合いのもと、外出場所、日程を皆で決め外出している。(本人の家に帰りたいとの要望を家族へ伝え、3年ぶりに自宅へ外出できた利用者がいた)	平均して月に1回は法人内の他事業所の催しや行事等に外出している。居室の掃き出し窓からベランダにでて、洗濯物を干している方もおられ、また、夏は隣接する畑まで出たりもしている。家に帰りたい思いを家族に伝え、リフト付き車の貸出を紹介して、自宅へ外出できたお話をお聞きした。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ、家族の承諾の上購入している。但し、金銭管理が不可能なので立替金にて対応している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えがあった時、また、本人の状況に応じ電話をかけている。土曜日に定期的に電話をかけてきてくれる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を利用し、手作り作品や季節の花を飾り、生活感・季節感が感じられ雰囲気作りを心掛けている。脱衣所においては整理整頓を行い広い空間づくりとカーテンによる仕切りをつけ、廊下との区別をできるように整えた。	食堂の窓から隣のチャイルドハウスが見え、子供たちの遊ぶ声も聞こえてくる。入居者が作った大きな壁掛けが食堂に飾られ、外出時、行事の写真が入ったお便りが廊下には掲示されている。廊下は吹き抜けの天井が高く明るく、十分な広さがある。洗面所は、足元の引き戸を外し、車椅子の方でも使いやすいような工夫、トイレの手書きの大きな標識など職員の心がこもった工夫と配慮が見られる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂だけでなく、廊下や玄関、玄関先に椅子を置き思い思いに過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に説明を行い使い慣れた、馴染みの家具等を搬入して頂いている。また、状況に合わせて都度本人・家族と相談しながら工夫を図っている。	お部屋には、小さな仏壇、家族の写真、壁掛け、入居者の作品、タンスや机、椅子など馴染みのものが持ち込まれている。個々の状況に合わせているが、職員が家族と相談し、部屋の掃除や整理整頓に配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮している。洗面所においては、車いす利用者がうがい等しやすいように、下部の扉を外し、膝が入りより洗面台に近づけるよう工夫した。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の掲示について	法人全体の掲示だけでなくグループホーム独自の理念を掲示する。	グループホーム独自の理念を掲示し理念を共有し実践に繋げている。	0ヶ月
2	26	チームでつくる介護計画とモニタリング	定期的にケースカンファレンスを行う際家族も同席出来るよう声掛けを行う。	介護認定の更新時には家族に同席して頂けるよう努める。	12ヶ月
3	35	災害対策について	年2回の避難訓練を実施しているが定期的にシミュレーションがおこなえるようにする。	年2回の避難訓練でなく日常の中で職員の通報訓練。利用者の誘導。負傷者の対応等の訓練が出来るよう取り入れていく。(3/15の訓練の際には、負傷者の設定、市役所・包括支援センター・区長への通報訓練を新たに取り入れ実施した。	6ヶ月
4	45	入浴を楽しむことができる支援	介護度の重度化に伴い浴槽部改修が出来るようにする。	利用者の楽しみである数少ない入浴を満足して頂く為に一部改修が出来るよう検討する。併せて入浴方法の工夫も行っていく。	12ヶ月
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。